

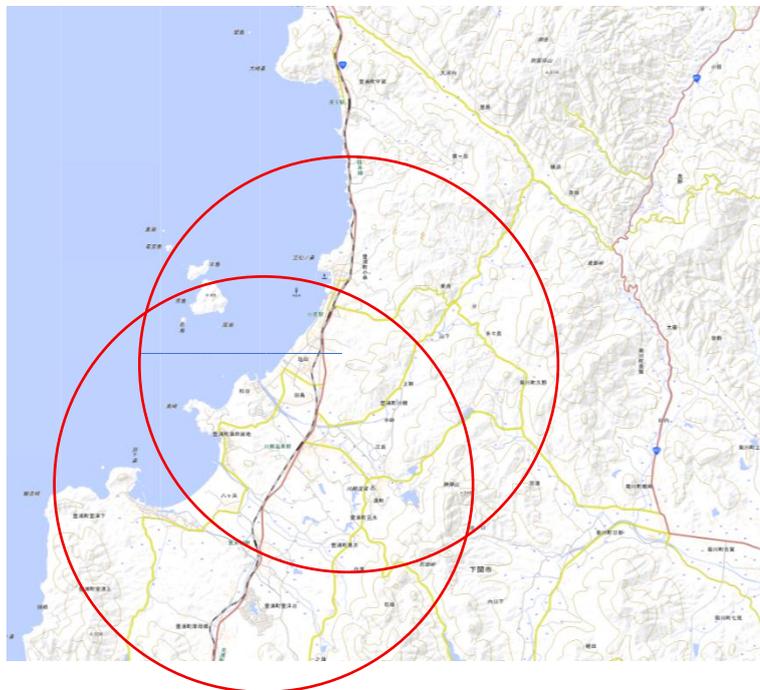
黒井での説明会 場所 黒井公民館2階 研修室 出席者 22名程度

19:00～日程説明

市教委 挨拶

市教委からの計画説明（10分程度）

※市教委の留意点 6点 印刷物追加 ちなみの地図（私作成）



質疑

- Q. 川棚地区で説明会をしない理由は。
- A. 廃校になるところを重点的にした関係で、川棚地区では行わなかった。
- Q. 地域住民と意見交換をするといいながら、川棚はしない。色々な地域からの子どもが来ることになる。学校の活動はそこに住んでいるから生きる。地域のかかわりは近くに住んでいるからできる。小串はまだ近いが、宇賀での活動となったら、車で行くのか、川棚の子が宇賀に行くのはどうするのか、宇賀の子が川棚のことをするのか、とか。どうなのかと思う。やはり川棚に棲んでいる人の意見を土俵にあげるべきではないか。
- A. 今の意見を真摯に受け止めたい。
- Q. 小中一貫になっても校舎は違うのか。
- A. 今回は分離型で、吉見小・中学校のパターンを想定している。
- Q. 以前の説明会では、小中一貫校で、豊洋中学校に統一されると聞いていたが、いつ別れたのか。その間の説明は全然伺っていない。
- A. 新しく4期計画を考えたが、特に小規模になってしまっている学校、複式学級で学級運営、学校運営をしている学校についてはできないことがあるという課題を早く解消すべきというのを重視した。三期計画では豊洋中学校としていたが、校舎整備を伴い、時間がかかるので、小規模化を解消するために、室津小学校との統合を行い、分離型の小中一貫に取り組む。
- Q. 前回小中一貫を決めた時、豊洋中学校の校長が知らなかったと聞いたが、市教委は児童や先生の意

見を聞いた上で計画を考えているのか。とにかく小規模校、複式学級は良くないという印象を刷り込みしているが、文部省や研究機関が出した研究結果の中で、小規模校や複式学級が児童生徒の学力、議会答弁では規範意識にも問題があるようなことを言っているが、そういう研究結果があるのか。25年教師だったが、大規模校の方がはるかに問題を抱えた生徒が多く、規範意識は、小さい学校でも素晴らしかった。何をもって規範意識、学力が劣るといえるのか、データを示してほしい。

- A. 下関としてデータを示すものはない。それぞれに良さや問題点がある。統合によって大規模化を果たしたいわけではない。小規模校で複式をやっている学校は望んでやっているわけではないので、複式でない環境が望ましいと思っている。
- Q. どういうデータに基づいているのか。全国的なデータがあるからいっているのではないのか。
- A. 小規模校、大規模校それぞれに問題がある。今の学校はみなさんの努力でいい学校にしようとして運営している。どこの学校でどういう問題があるというのはいえない。一般論で言えば、国が出している調査結果で、小規模校ではクラス替えが出来ない、部活動の種類が限定される、体育科の球技や音楽科の合唱や集団学習の実施に制約が生じる、班活動やグループ分けに制約が生じるなど、文科省の研究の結果が出ている。これを元に計画を立てている。
- Q. 文科省は小規模の学校を潰さないようにとの通達も出している。大規模校で集団競技は出来ても、活躍できる子は一部で、個々の能力を伸ばせるかは、あいまい。まるで子どもたちのことを考えているかのような言い方が私には許せない。なぜ小規模校ばかりで大規模校はほったらかしなのか。
- A. ほったらかしではない。
- Q. 具体的に何をしているのか。人数が多いのが問題なら、学校を分割するなど、人数を減らすような方策をとっているのか。内日の教育がいいと教育長も言っていた。同じようによい状況にある宇賀や室津をなぜ潰す必要があるのか。
- A. 教育委員会の考えでは、小規模校よりも一定程度の規模を持った学校の方が適正であるとの考え方を説明している。
- Q. 適正なデータを示して。
- A. 数値的なデータはない。
- Q. 想像に基いてか。
- A. 想像ではなくて、国の基準に基づいているというのでは
- Q. 国が勝手に決めた基準だ。
- A. 教育委員会は、複式学級を解消したい。
- Q. なぜ複式学級がいけないのか。
- A. 小規模学校の方が改善しないといけない点が多いから。
- Q. 複式学級が悪かったという話がどこにあるのか。私が教わった先生は複式学級は少ない人数が同じことを二学年にわたって勉強できるからよく学力がつく、35人いたら、一回教えて回るのに回り切れないけれど、複式学級だったら3、4人を相手にできるから学力がつくと言われた。何が問題なのか。
- A. 学力だけの問題ではなくて、多様な人間関係とか、友達の少なさ、クラブ活動とか、球技とかそういったところが制限される。そういったところに課題がある。
- Q. 小学校は部活はない。
- A. 私も元教員で、複式学級を持ったこともある。よさもある。一人の教員が二つの学年を担当することで、同じ学級で二学年が学習するので、前の学年を振りかえることもできるし、次の学年の学習を予め知ることもできる。人数も少ないので、リーダーシップもみに付けさせることもでき

る。教員が他学年に行っているときに自分たちで学習しないといけないので、リーダーシップを見に付けさせられる。いい面がたくさんある。ただ、担任の事業研究が必要になってくるというものもある。一つの学年を教えているときに、もう一つの学年が自分たちで学習しなければならないという問題点ももちろんある。そうならないように担任の先生が片方の学習をしているときにもう片方の学年のためにすごい準備をしておき、先生がいなくても勉強できるように複式学級はなっている。ただ、一日6時間あって、そういった授業が全部できるかと言えば、なかなか準備ができない期間があり、一人が一学年を教えるのに比べ、ほっておかれる時間が出来てしまうというのも課題として認識しておく必要がある。

ただ、トータルで小さい学校は大変すばらしい教育が出来ている。教育委員会もしっかりと複式の授業ができるように研修会をしたり、指導主事が学校に行って複式の授業についてアドバイスをしたりして、現状でいい教育ができるように最大限努めている。ただ、一人になったときに（室津）複式の学級は一人の子と授業をすることになる。一对一の授業であれば、学力はつくと思うが、今求められている様々な考えに触れたり、意見交換をしたり、そういった中で育つ力というのが付けにくいといった課題がある。ゼロになった時に、1年と3年とかの組み合わせの複式学級になる。図工とか体育といった技能教科、12年、3、4年とかならできるが、国語や算数のように系統的に学習していくものについては一緒にできない。令和12年度以降、人数がどうなるかわからない。この後1とか0が続いていったときに今と同じような子どもたちにしっかりと力をつけさせる授業が、学力は一对一でしっかり教えることができても力はつくかもしれないが、多様な考えに触れて、たくさんの人と意見交換をしたり、自分の考えを表現する、そういった力を身に付けさせようと思った時に、1とか2とかが続いたときに、できるのか。それを一緒に考えようという計画だと考えてもらえないか。

- Q. 一人では困るなら、なぜ、蓋井は一人しか生徒がいらないのに中学校を作ったのか。
- A. 蓋井は物理的に離島なので。寮の運営も難しい。離島なので、島の中で育てなければいけないのではと。本土と蓋井島は違う。
- Q. 小串からだが、内日小学校は小規模特認校になっているが、今回は特任校を検討したのか。
- A. 今期の中では検討していない。
- Q. なぜ、しないのか。教育長は内日のことを褒めていた。同じようなことをしている学校はつぶして、それ以上特認校はしない。理由がわからない。お金がないからか。なぜしないのか。
- A. 内日は市内の一番中心に位置している。
- Q. バス便がなくなるのでは。内日へのバス便は今度廃止になる。交通から言ったらこちらの方がはるかに便がいい。
- A. 小規模特認校は通学区域の制度であり、単に学校の適正規模をはかるためだけではない。それなりの理由があって特認校にしている。現在の所、それ以上設置はない。
- Q. 本当に下関市を盛り上げたいのであれば、学校は残して、特認校して、人が入ってくるのを待っていいのではないかと。学校がなくなったら地域はお終い。5年前は16名だった校区外の児童が現在32名が校区外通学をしている。なぜ、許さないのか。
- A. 校区外承認は、様々な配慮を元に居住地以外の学校に行くことを認める制度だが、現在は双方にいる。大きい方にだけでなく、それぞれに行き来がある。

Q. 「生き抜く力」とは何の力か。

A. 下関市の教育振興基本計画（今年度作成）の中で、「自分の良さや可能性を認識し、新しいものを作り出す想像力を身に付けていく」ということで、生き抜く力という表現を使っている。

Q. もう一度。

A. 文書で。「次代を担う子どもたちの権利、利益の擁護をはかり、最善の利益を実現し、多様な才能を伸ばすための教育を行い、生き抜く力と豊かな心を育むとともに、市民一人一人が学びを通じて自分の良さや可能性を認識し、新しい物を作り出す創造力を身に付けていくことが求められています。」という文章。生き抜く力そのものの定義は書いていないが、こういう文脈。

Q. この計画の目的と合致しているのかわからなかった。社会に出て生きていく力なのかと感じたが、学校で身に着けるのか。学校は勉強する所ではないのか。生き抜く力は家庭や地域で育てるものではないのか。学校が担おうとしていること自体が無理があるのでは。

A. 学力もその中に入っており、一番目が様々な問題に積極的に対応して活躍する確かな学力、二番目自らを律しつつ他人と共に協調し、命を大切にす心や他人を思いやる心、感動すると豊かな心、三つ目がたくましく生きるための健やかな体。この3つを柱として生き抜く力の要件としている。

Q. 学校でなくても身に着けられることばかり。なぜわざわざ学校を統合してまで身に付けなければならぬのか。こういうものを家庭が学校に求めていること自体間違いではないか。これを統合して身に付けていく必要があるのか。

A. その意見は外でも耳にするし、思うところはあるが、市としてはこの「生き抜く力」を基本に教育振興基本計画を策定している。

Q. ならば、生き抜く力が身についたかどうかは、どう評価するのか。

A. 確かな学力の育成や豊かな心の育成といった主要施策が出て、それぞれを教育委員会の中で、検証していくという形をとる。具体的に一人一人の子どもの学力という形ではないが、施策の成果としてPDCAという形で確認する。

Q. PDCAを行うということは、これが間違っていたことがわかった時にはまた学校を分けるということか。

A. 今言ったPDCAは個々の施策だが、学校の適正規模適正配置についても計画の見直しは想定しており、人口の変化や基準の見直しがあれば、計画は見直すとしている。

Q. 計画の見直しの所にある、宅地の造成や集合住宅は見てもすぐには出来ない。それが見直しの前提になっているのは偏っている気がする。

A. 学校の統廃合は皆さまの協力が必要なので、今までの計画も、全てその期の中でその通りになったわけではなく、合意を得てから進めているので、時間がかかっている。今回、計画が変わったと指摘されたが、3期の計画があればこれもと入れ込んでなかなか進まなかったのを現実路線に落とした形で4期の計画としている。期で分けたのも、定期的に見直しをするという風に考えている。情勢を見て見直しをすることは考えている。

Q. デリケートな問題。下手をすると取り返しがつかないことになる。あまりデータにも基づいておらず不安。誰が判断するのか。生き抜く力や学力が向上している、統合した結果良い方向に向かっていくのか、悪い方向に向かっていくのか。誰がどのように判断をするのか。

A. 施策の話になるが、市教委の施策について適切か、効果がでていくかというところは行うことになっている。統合した結果、学力が付いたかとか、生徒指導上の課題がどうなったかというのはそれぞれの生徒指導上の視点、学力の視点があり、それぞれで評価をすることになる。その上で計画がどうかというのは、全体の施策の中で、点検をしている。もしうまく行かなかったときに怖いとい

のはおっしゃる通り、だからと言って、統合したところをすぐに離すというのは簡単な所ではないので、それに関しては新たな学校として、どういう課題があり、どういう学力や生徒指導や通学などに取り組もうかというのを学校として考えていかなければならない。

Q. 先行事例として豊北地区がたくさんの小学校、中学校を統廃合している。それで足らずに今度は小中一貫にするということだ。私は統合後に豊北町の小学校が荒れたと聞いた。地域の学校が無くなる、全く知らないところに行く、しかも地域から見守られずに遠距離のバス通学をしないとイケない。で、学校が荒れたと聞いた。すでに統廃合した学校の児童の成績が上がったのかとか、学校がどうなったのか、地域がどうなったか。豊北地域、昨年度の出生が1名か2名ぐらいしかなかった。どんどん豊浦町や別の地域に親が子どもを連れて出てきている。学校の規模を適正にすることで、地域を無くすということ、(している)教育委員会は嫌なことを押し付けられて気の毒だが、地域が声を上げてほんとうにそれでいいのかということ、市教委の先にある、市全体の在り方も考えて、文句を言っに行かないとイケない。

豊北はどうなったのか。中学校が統合されたときに、中学生がバスに乗れずに事故で無くなっていくはず。学校統廃合を苦に、小学生が自殺したという地域もある。つくば市は小中一貫をものすごく推進した挙句、大失敗に終わって今後立てる学校は小中一貫はしないとやっている。小中一貫をこの先考えるのであれば、プラスマイナスを提示した上で、許可を仰がないと、虚偽の説明をして意見を集めて、その結果推進したのであれば、嘘をついて生き方を変えているということ。

検討委員会が案を出したというが、名簿を見ると、総合支所は出ていたが、委員の中には(旧)豊浦郡の人はほとんどいなかった。本当にみんなの意見を得たのか。二回目は非公開で、出されていなかったと思う。(請求すればよいが) こういう大事な話し合いの資料は出してほしい。

A. 荒れたと言われたが、どういった状況でどういった原因でそうなったかは把握できない。いろいろな要因があると思う。今現在は、全ての学級の授業を見て回っているが、子どもたちは仲良く、学習をしている状況もあり、滝部に7つの地区からスクールバスで来るが、生活のリズムも整っており、中学校ともカリキュラムをそろえてやっというところに取り組んでいる。

この会は様々な意見を頂いてこれから進めていこうということなので、絶対にこう進めるというものではない。意見を聞いて進めていく。プラス面、マイナス面をしっかり把握し、分析した上で学校づくりというところで一緒になってやっというところ。

A. 検討委員会の委員は、地域に寄せてはいない。大人数なので。13名で、学識経験者、教育機関の職員、保護者代表、自治会連合会、公募。地域より、分野を区分して人選をした。議論は3回実施したが、3回目は審議内容が組み合わせの部分で、デリケートな話なので、公表前提だと自由な意見がしにくくなるということで、非公開にした。

Q. 小学校を子どもが少なくなるから統廃合するということだが、子どもを増やそうとする機関はないのか。子どもを地域に呼び寄せる機関はないのか。自分は、支援員をしていて、少人数、複式にもいいところがあると思う。子どもを増やそうという取り組みをしている機関はあるのか。

A. 出生・子育ては、こども未来部がある。市は最重要施策で子ども子育てを上げており、そちらで子育ての対策をしている。教育委員会も、施策の一環として、いろいろなことに取り組んでいる。他市からの移住はIターン、Uターンなどはまた、別の部局がある。様々人口を増やす取り組みをしている。

Q. 各々して、連携がされてないということを感じている。そういう部局があることを知らせてほ

しい。町を挙げて誘致する活動もできるのではないか。

A. 学校を減らしたいわけでもないし、子どもが減ることを仕方ないと思っているわけでもない。他の部局と連携してやっていきたいと思っている。よく役所縦割りと言われるが、庁内では教育委員会、こども未来部、福祉部、いろんな部局で、事業で見落としがないように一つの表に落として、施策が上手く回っているかというのを点検したりといった作業はしている。そういう内容を発信したり、連携を図っていきたい。

Q. パブリックコメントの期限が7月31日で、説明会が24日。あまりにも短い。コメントを時期を過ぎても受け付けていただきたい。ほとんどの方が初めて聞いて、31日で締切では、何も考えていないと思う。期限を過ぎても受け付けてほしい。

A. 気持ちは重々承知している。パブリックコメントは、全市民に対して、同じ条件でやっている。市民とのコミュニケーションという形でやっている。説明会は全校区ではなく、10か所。パブリックコメントと併せて、影響の強い地域を、過去の説明会の場所も考えて10カ所とした。順番にしている。パブリックコメントは全市で同じ条件でしている。パブリックコメントの為の説明会をやっているというより、地元に影響のある部分ということをしているというのは理解いただきたい。8月1日についたからダメとは思っていない。届いたものについては集めたいと思っているし、今日の意見用紙も地元の意見を聞くために把握していきたい。

Q. 結局統合したとき、誠意という名前は残るのか。

A. 誠意という言葉への思いは聞いている。統合となれば、どういう学校にするかという議論を地元、保護者、地域と話し合う中で、学校の名前が最初にあると思う。それぞれ歴史があるので、相互の地域の人で話し合っ、決めていくのが、今までの在り方。市教委が決めるわけでない。

Q. 「誠意」を大切に、必ずつけてほしい。

A. 気持ちは受け止めたい。地域の皆さんが話し合いの場所で、主張してほしい。必ず開校に向けた話し合いの中で、校名、校歌、校章、制服、体操服、かばんなども。まずは、地域の統合への確認ができたら次のステップへ。できなければ教育委員会で進めはしない。

Q. 吉見と吉母はどうしたのか。

A. 地域の方と議論して、連名で同意の書面を頂いて、開校準備に向けた議論を進めた。吉見小・中学校。それぞれに校舎があり、校長、教頭がいる。

Q. ・来られなかった地域の方に、今日の内容を目にする可能性、議事録を読むことができるか。

・スクールバスを出すなら、図面で示すべきではないか。

・川棚が統合したときに校名、校歌が変わるなら、きちんと機会を持つべき。

小串・宇賀の説明会では、川棚小が浸水地域にあること、交通面で危険なことなどをきちんと説明すべき。他の件では、統廃合がひっくり返ったところがある。誠意についていえば、室津の方が学校の設備ははるかによい。誠意小学校のトイレは何年も臭いままに放置されている。

・跡地利用についてあまり出なかったが、角島地区ではトイレが使えない。統廃合したら跡地が使えないかの静画あることもきちんと伝えるべき。

A. ・まとめて整理して概要は各会場で、ホームページに出したい。

・バスの図面は、次の会場では難しい。

・川棚小での説明会についても真摯に受け止めたい。

- ・浸水想定区域の場所についても、認識をきちんとしてほしい。
- ・トイレは老朽化しており、全市的に改修している。
- ・角島小学校跡地は利用できていないが、廃校にお金を振り分けることはできない。活用策を誘致することが大切。学校が古く、面積が大きいことがネックで進んでいない。

Q. 室津小は老人施設にする予定だったのではないか。

Q. 今日貰った用紙はどう提出するのか。室津小学校は青少年の家という利用方法が上がっている。

A. 用紙は今日でなければ、市教委にいただけたら、回収したものと同様に整理をしていきたい。

A. 全市的な公共施設マネジメントの計画の中で、青年の家にしてはという提案がされている。

Q. 統廃合の話し合いのメンバーを考えると、どうしても男性が多くなる。子どもの意見を聞くと議会答弁しているので、きちんと聞いてほしい。

Q. 現状は、1合目から10合目のどのくらいの位置か。

A. 教育委員会としての計画であり、あくまでも基本計画であり、実施というわけではない。11年までの実施を目指しているが、地元との話し合いの上で進むことであり、まだスタートラインに立っていない。示した上で議論が進み、統合に向かうとしても、開校に向けた準備に2年はかかる。

Q. 住民に向けてというならオンラインで配信したらと思うが。

A. 意見として聞いておく。